

令和3年4月1日付教育委員会事務局の組織改正等について

急速な社会の変化やAIの飛躍的な進化などの絶え間なく進む技術革新等の下、新型コロナウイルス感染症の拡大への対応が加わり、一層将来予測が困難になる時代の中にあっても、第3期京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」を踏まえ、地域・大学・産業界等の幅広い参画を得ながら、令和の時代の新たな教育改革に取り組むため、令和3年4月1日付けで、次のとおり、組織改正を行います。

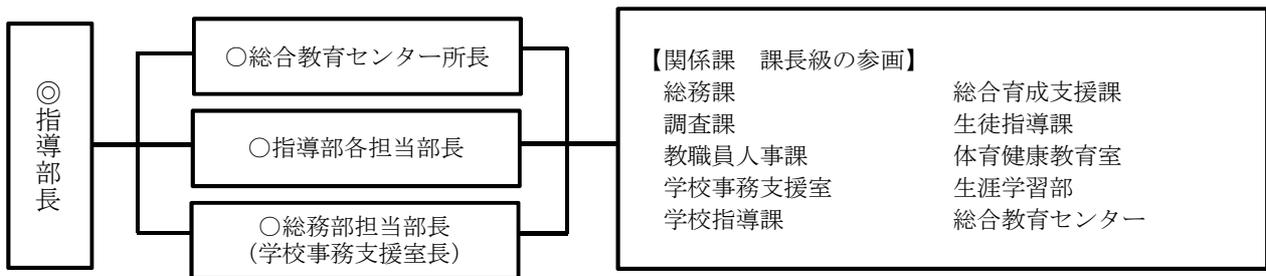
1 教育委員会総体でのGIGAスクール構想を推進する「教育ICT化推進チーム」の設置

本市では、令和3年度を、一人一台端末の「本格活用元年」と位置付け、ICTを活用した新たな教育と、これまでの対面での協働・体験的な教育を融合し、子ども一人一人の能力を最大限伸ばす教育実践を行うため、教育委員会内に「教育ICT化推進チーム」を設置し、教育委員会総体で取組を推進します。

チームリーダーを指導部長が、サブリーダーを関係部長が務め、学校指導課担当課長（教育ICT化・社会連携担当）をはじめとする関係課長で組織します。

さらに、教職経験者やICTスキルの高い支援員の配置によるサポート体制の強化や、学校現場での経験豊富な指導主事の配置、また、推進チームに参画する教職員人事課担当課長（働き方改革担当）を中心として教育のICT化を契機とした、より一層の校務効率化や男女が共に活躍できる職場づくりに向けて取り組む等、関係施策を総合的に推進します。

【教育ICT化推進チーム イメージ図】 ◎チームリーダー ○サブリーダー



2 新しい高校の開設に向けた体制整備

(1) 「新美工開設準備室」の設置

銅駝美術工芸高校は、沿革（明治13年創設の京都府画学校）を同じくする京都市立芸術大学とともに京都駅東部地域へ移転・合築し、令和5年4月の開校を目指しています。文化を基軸とした京都のまちづくりの新たな拠点において、次代を先導し独創的な文化芸術を創り出す若き担い手の育成を図るため、新美工の学習内容や高大・地域・産業界など開校に向けた準備を学校と一体となっていくため、指導部内に「新美工開設準備室」（課相当・兼職）を新設します。

(2) 「新普通科系高校開設準備室」の体制強化

洛陽工業高校の跡地を活用し、塔南高校を移転・再編する「新普通科系高校」の令和5年4月開校を目指しています。生徒一人ひとりが未来社会を創る主役として、新たな価値を創造し行動する提案者となるため、地域・企業・大学との協働活動をはじめとした魅力ある教育活動や、学習環境の整備など開校に向けた準備のため、開設準備室に専任職員を3名配置（教育職2名、行政職1名）し、体制を強化します。

3 学校・幼稚園での新型コロナウイルス感染症対策等の取組支援のための体制強化

学校・幼稚園での新型コロナウイルス感染症の感染防止対策推進と児童生徒、教職員等に感染者が確認された場合の迅速な対応、また、持続的な学校・幼稚園運営体制の支援を行うため、体育健康教育室に新たに課長級・係長級の職員を各1名増員し体制を強化します。

<参考>退職校長等の活用

教育委員会事務局では、学校現場等で実績を挙げた退職校長を各所属で任用するなど、総人件費を抑制して新たな行政課題への対応等を図るとともに、学校・幼稚園においても、技能労務職員の会計年度任用職員化を図るなどにより、教育委員会全体で約20名の職員削減を行います